

検討の視点

レアメタル等のリサイクルに係る現状と課題を踏まえ、リサイクルを重点的に行うべき鉱種について、製品全般を横断的に対象として、例えば以下のような視点から検討すべきではないか。

1. レアメタル等のリサイクルの検討全般について

- (1) レアメタル等のリサイクルについて、現時点で必ずしも取組が進んでいるとは言えない状況について、原因や課題をどのように考えるか。
- (2) 現行のリサイクル政策・取組は、資源確保の観点からも有効か。その在り方についてどのように考えるか。
- (3) 国、地方自治体、リサイクル事業者、消費者、製造事業者、販売事業者等、各関係者の役割分担はどうあるべきか。
- (4) レアメタル等のリサイクルの採算性を検討する際には、処理コストの増加につながる可能性も踏まえ、ベースメタルや貴金属等も含めた全体のリサイクルを考える必要があるのではないか。
- (5) 代替・削減技術開発等の進展等により、新製品に使用されるレアメタル等が常に変化していること、製造されてから排出されるまでタイムラグがあることや資源価格が乱高下することなどをどのように考慮すべきか。
- (6) レアメタル等の含有量に関する製品情報は、企業の競争力の源泉につながるため企業秘密に属するが、今後対策を議論するに当たってこの点をどう考慮すべきか。関係者間での情報共有が難しい面もあることを踏まえ、どのような共有方法が考えられるか。

2. 使用済製品の回収量の確保について

- 個別リサイクル法等に基づき使用済製品が回収されずに、不法に海外へ流出したり廃棄されるもの、家庭内に退蔵されるものなどが存在する中、回収量確保等の観点からどのような取組が必要か。

- (1) 家庭内に退蔵されたものを含め、使用済製品をユーザーが積極的に回収ルートに排出することを促進するためにはどのような取組が必要か。その際、個人情報や保存データの取扱いや、新製品の登場により製品区分の境界が曖昧になっていることなど、排出者であるユーザーの視点をどう考慮すべきか。
- (2) 既存の回収ルートではなく、違法な不用品回収業者により回収されるケースや不法に海外流出するケースなどについてどのような対応が考えられるか。
- (3) 使用済製品の広域回収など、効率的・効果的にリサイクルするに当たって、現行の法規制（廃棄物処理法等）において問題はないか。

3. 使用済製品の回収後のリサイクル事業者への引渡しについて

○使用済製品が回収されても、輸出により海外流出するケースや鉄くず等として処理されるケースが存在する中、各製品について、回収品がレアメタル等のリサイクルの観点から適切なリサイクル事業者に着実に届くようにする「国内資源循環」を促進するためにはどのような取組が必要か。

- (1) レアメタル等が着実に国内でリサイクルされるために、使用済み製品の分離・解体からレアメタル等の抽出までのリサイクルの段階において、関係者がリサイクルに取り組む動機付けを、支援を含めどのように行うか。
- (2) 輸出により海外流出する使用済製品について、資源確保の観点から水際での課題や対応の在り方についてどのように考えるか。
- (3) レアメタル等のリサイクル事業者（中間処理業者等）の育成についてどのように考えるか。

4. リサイクル技術の開発について

- (1) レアメタル等の経済的なリサイクルのために重点的に取り組むべき技術開発課題は何か。

- (2) 前処理工程（使用済製品の解体・破碎・選別）からレアメタル等回収工程（製錬・抽出等）へリサイクルに最適な産物が引き渡されるためには、前処理工程において如何なる技術が必要か。
- (3) 使用済製品に含まれるレアメタル等を、再度これら製品の原材料等として利用するためには、どのレベルまで分離抽出する技術が必要か（鉱種単体レベルまで分離する必要があるか、合金レベルで十分か、カスケードリサイクルでは不十分か）。

5. 設計・製造段階での取組について

- (1) 製品が使用済となった後の解体・処理段階においてレアメタル等のリサイクルを推進する観点から、製品の設計・製造段階において取り組むべき課題はないか。
- (2) 使用済製品のみならず、製造工程内で発生するスクラップのリサイクルが進展しているが、こういった工程内リサイクルを進めていく上で課題はないか。